

SORA

web magazine 2017.jun. vol.85

Travel



Micronesia Rota Island

やっぱり気になる ロタ島でのダイビング!



MAP
CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

グアムとサイパンの間にあるロタ島。その2つはかなりメジャーなのに、ロタの知名度はイマイチ。それが決して悲しい訳ではない。私たちダイバーにとっては逆にありがたい。日本から近い身近な海で、まだ他の国のダイバーがあまり訪れていない無垢の海。長年愛されてきたロタホールは輝きを失うことなく、逆に異なった時間にダイブすることで、これまでに見知った魅力以外も楽しむことができるように。ロタホールばかり注目されるが、魚影の濃い、フィッシュウォッチングに適したダイビングポイントもある。今回もロタでは老舗のダイビングセンター・ブルーパームスさんでお世話になって、3泊5日のロタを満喫してきた。

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



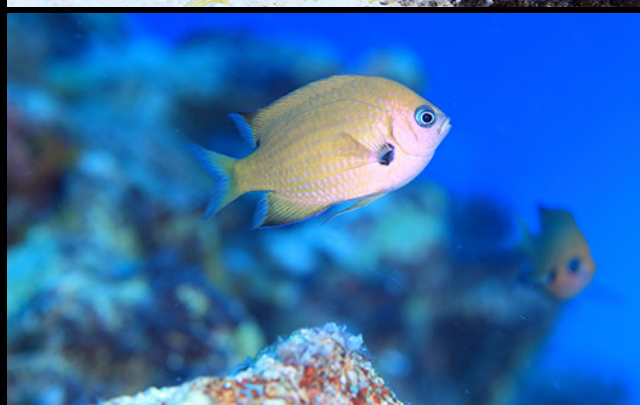
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2017
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



「お帰りなさい、Rota Blue ♪」

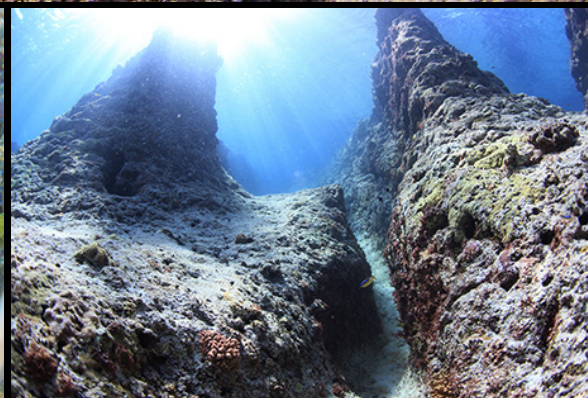
グアムをお昼に出発して、約30分のフライトでロタ島に到着。送迎車でホテルへ。バタバタと準備を終え、14時には港に向かっていった。まず最初に向かったのは、ファイヤーワークス。真っ白い砂地が広がるポイントで、所々にサンゴのパッチリーフが点在する。ボート上からもわかるとびきりのロタブルーの海にジャンプイン。海の中にも陸と同じくらい明るく、そして青い…。今回もお世話になったブルーバームス・ロタの高久めぐみさんが水中スレートを見せて、「お帰りなさい、Rota Blue ♪」と伝えてくれる。彼女はそんな演出が好きで、前回初めてお世話になった時も、「ようこそ！ Rota Blue ♪」と一番最初にスレートにそれを書いてくれたことを思い出し、更に笑顔に。最初は、浅場のダスキーアネモネフィッシュの家族にご挨拶。6月はちょうど幼魚の季節だったので、様々なチョウチョウオの幼魚を撮影。幼魚の時は、違う種類で混泳してるのが可愛い。水深を落として砂地へ。真っ白な砂地とロタブルーの対比に心優しくなる。小さな根にヨスジエダいの幼魚が花火のように群れていた。接近すると、わーっと私の前にやってきて、慌ただしい。めぐみさんも初めて見たと言う。なんだったのだろう…。そして少し泳いだ沖に、今めぐみさんがもっとも紹介したい場所に連れて行ってくれた。それも小さな根で、そこにはデバスズメダイの成魚から幼魚までがこんもりと群れていた。それぞれ違うブルーがロタブルーを背景に泳いでいる。癒され感が半端ない…。このような景色は、ロタでは少し珍しいようで、この根はいつまでも大切にしたいとめぐみさんは話してくれた。



Micronesia
Rota Island
ミクロネシア・ロタ
Travel



Micronesia Rota Island ミクロネシア・ロタ Travel



生き物がたくさんセンハノンドロップオフ

2年前のロタ取材の時にも、ロタホールだけではなく、お魚などの生き物もたくさんいますよ!というアピールをしたのですが、今回、センハノンドロップオフを潜ってみて、それは誇張ではなく、本当に素晴らしいフィッシュウォッチングの海であることを再確認した。次から次へと生き物が出てきて、写欲も全然止まらなかった。60m下が見えるダイナミックなドロップオフの壁沿いには各水深にアイドル種が見られる。まずロタにたくさん居るダイダイヤッコ、そしてコミカルブレニーを撮影して、水深20mで青抜きできる2匹のアオマスクを撮影。そのまま30mに深度を落として、希種、ヘルブリッチを撮影、その周囲でニシキヤッ

コの幼魚を見つけたが、撮影に失敗……。そのまま水深を上げ、スミレナガハナダイ（オスメス）が群れている壁へ。グアムリーフダムゼルとハナゴイ群れの中を通り、浅瀬に到着。まずはゼブラハゼにご挨拶。気がつくと、足元はモンツキカエルウオ村。よく見れば、大小さまざまなモンツキカエルウオが穴から顔を出し、または全身を露わにしている。そしてそのモンツキカエルウオ村を象徴するかのように、円柱の根がいくつも立っていた。その不思議な海中景観の中で、さらにシテンチョウチョウウオの幼魚などにご挨拶しながら、ゆっくりとした時間は流れていった。

UFOに連れ去られる!!!!

ロタの海の代表的なポイント・ロタホール。このロタホールの光に憧れて来島するダイバーがほとんどだと思う。陽が一番高いときに現れる大きな神柱のような光は、一度は絶対に見たいロタホールの真髓的な景色。水面から垂直に現れる白い光は、まるで宇宙からUFOがやってきたような趣を想像させられる。その光の中にダイバーが入ると、まるで宇宙に召されるのではないか?とってしまう。地上で生活している限り、なかなか見ることない絶景だと思う。



Micronesia
**Rota
Island**
ミクロネシア・ロタ
Travel

ロタホールのおすすめの潜り方

これまでに何度かロタ島の取材に来て、いろんな時間帯でロタホールに潜った私は、今回、明確にオススメの時間を見つけた。それは3段階に分かれる。まずは、前述のように大きな白い柱の光ができる、最も太陽の位置がピークな時。よく雑誌などで紹介されるロタホールの形。そして、私的にオススメなのは、ホール内で光が生まれる瞬間から、どんどん大きくなっていく過程を是非、見て欲しい。これは、水面があまりわざわざしていない穏やかな海況のみにしか見れないとのことだが、とても神秘的なのだ。今回もその生まれての光を見たいとリクエストしたら、「10時45分ごろだと思いますので、10時30分にエントリーしましょう!」とめぐみさんに言われた。まだ光が差す前のロタホール内は、いくつかある穴からのボヤ～とした木漏れ日が滲み、それはそれで雰囲気があった。そして、ガイドのめぐみさんが合図をくると、そこにはほんのスポットライトのような光が海底を射っていた。慌てて撮影を開始。露出やら、色々慌てっていると、か細い光はどんどんと平面に広がり、隣にもまた細い光は生まれた。眺めているとゆっくりと光の幅を広げ、二つの光は重なっていく。とても贅沢な時間。いろんな角度から眺め、撮影を続けた。そして、約1時間後に、垂直に大きな光の柱となった。高速で何かの物語を見ているようだった。





クライマックスは 光のカーテン!

そして、またオススメなのが、その大きな光の柱がさらに広がり、ホール奥にあるもう一つの光と並び、海中に光のカーテンができた時だ。他のゲストとの兼ね合いもあるが、ガイドさんたちはそのカーテンになる時間ももちろん知っているので、ぜひ見て欲しい。その時は、ケーブの奥から入り口を見る感じで。アカマツカサや、リュウキュウハタンポなどのお魚たちも泳いでいるので、更に神秘的な景色に出会えると思う。ブルーパームスのガイド陣は、そのような異なった光をゲストに見て欲しいと、お天気が良ければ、違う時間帯に日々ロタホールに潜りに行っている。ぜひいろんなロタホールの光を楽しんで欲しい。

Micronesia
**Rota
Island**
ミクロネシア・ロタ
Travel





イルカに導かれた先は、
ウェディングケーキマウンテンの海！



Micronesia
Rota Island
ミクロネシア・ロタ

Travel



白い砂地とリーフが混在するポイント。6月ごろにコブシメがやってきて、卵を産み付ける丸くて大きなエダサンゴを観察。サンゴの隙間にたくさんのコブシメの卵が。まだ生まれたてなので、無垢な感じ。そのエダサンゴには、たくさんの幼魚が住んでいて、一番の可愛い子ちゃんは、コガネヤッコの幼魚。体に大きな丸いワッペンを貼り付けている。そして、移動を開始。アジアコショウダイなどの幼魚を撮影しながら、ヨスジフエダイ、アカヒメジ、ノコギリダイが群れる根に。青い海と、白い砂地と黄色いお魚たちの風景が心地良い。そして、少し移動して、穴の中をガイドのめぐみさんが覗いて慌てている。???と思っていると、大き

くて見事なサイズのナポレオンが現れた。少し距離があったので撮影できず…残念。そのナポレオンが居た穴に入っていくと、ミクロネシアの固有種であるイエローカーディナルフィッシュが群れ、その先には青い小窓が覗いていた。ゲストも好きな景色だためぐみさんが教えてくれた。最後は水深を上げ、浅瀬をポートまで帰っていく。ベニツケテガミカエルウオ村を教えてもらい、そして、大胆にもサンゴの上に全身を見せて鎮座するセダカギンボの若魚も撮影。このポイントも見所たくさんの好ポイントだった。そして何よりもこのポイントまでの途中にハシナギルカの群れに遭遇。ポート上は幸せに包まれていた。

Micronesia Rota Island

Travel ミクロネシア・ロタ



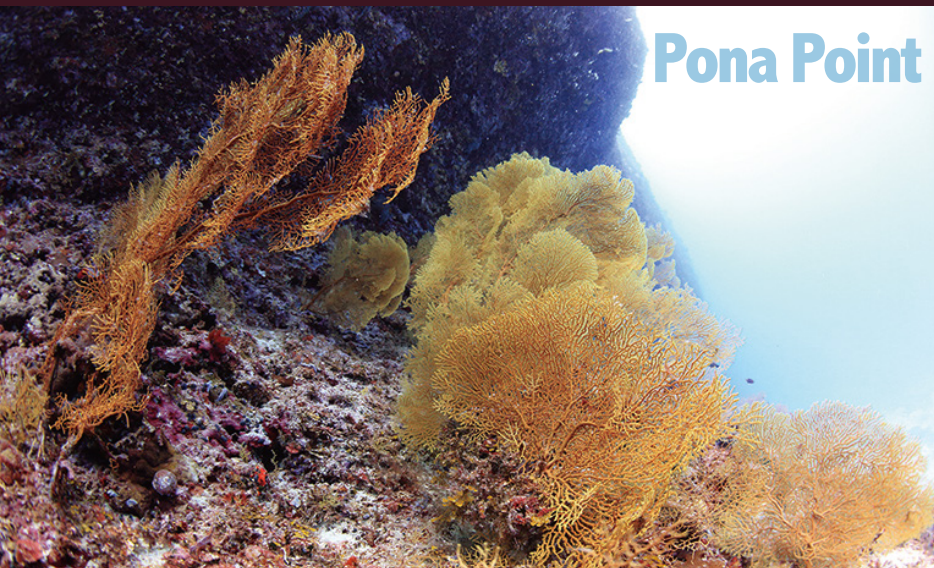
小さな飾り窓が人気のサリガイ & 豪快なポイント・ハルノンドロップオフ



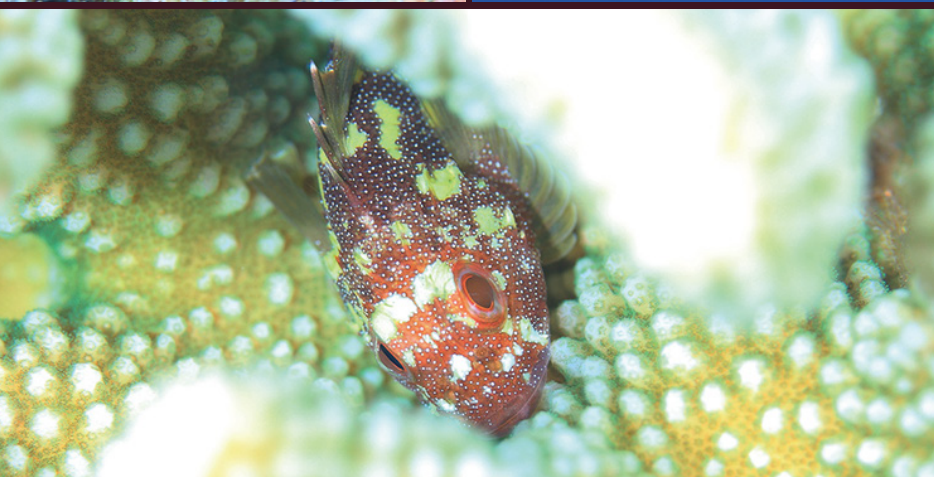
Harnom Drop Off

豪快なドリフトダイビングが期待できるハルノンドロップオフ。太平洋とフィリピン海が交わった海流がぶつかり合う為、大物遭遇率も高い。水深30mの大きな根の周辺では、ギンガメアジの群れが見られることも。取材中は、カスマアジの群れが、海底近くをパトロールするように泳いでいた。最近では、大人気のナンヨウハギの群れも多く見られる。幼魚から大人までのステージが見られ、それぞれのサイズで群れているのがこれまた可愛い。地形もダイナミックで、他のポイントとはまた違うスタイルのダイビングを楽しむことができる。流れのあるポイントなだけに海況のコンディション、また中級クラスのダイバーがエントリーできるスポット。水中の浅瀬から空を見上げると、波の碎ける先に断崖絶壁の岩場がくっきり見える。

美しく大きなイソバナを見に行きましょう!と向かった先は「ポーニャポイント」。エントリーして、まず教えてもらったのは、ハートの形の穴を持つ小さな根。それを撮影後、マクロの生き物を観察しながら移動する。少しオーバーハングになった地形が出てきて、中を覗くと赤や黄土色のイソバナが群生していた。ロタの中で、こんな風に見立てるポイントはなく、バリエーションの一つとしてオススメのポイント。マクロの生き物は、オレンジフィンアネモネフィッシュやマダラタルミの幼魚、カスリフサカサゴの幼魚、モンツキカエルウオの幼魚などもたくさん見つかった。



Pona Point



ポーニャポイント&コーラルガーデン

Coralgarden



ロタの美しいサンゴ礁のポイント、コーラルガーデン。ミクロネシア特有のまるで宮殿のような造形のサンゴが海底一面を覆い尽くす。中にサンゴの造形がハート型もあり、見方によれば、どんどんとイメージを膨らますことのできる空間。突起の多い珊瑚の隙間には、チョウチョウウオなどの幼魚が見え隠れする。他にもトレイシーズデモイセル、オレンジフィンアネモネフィッシュの幼魚やテングロスジギンボなどなど。サンゴの合間の砂地には、オドリハゼも教えてもらった。平均水深が浅く、太陽の光を強く感じることで、リフレッシュできるポイントでもある。



Micronesia
Rota Island
ミクロネシア・ロタ
Travel

今回お世話になった現地のダイビングサービス・ブルーパームス

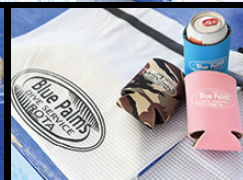
ロタ暦12年の高久めぐみさんを初め、経験本数7000本以上の日本人スタッフ3人体制。お客様1グループ6名様以内で、お客様の好みに合わせたダイビングガイドが可能で、ビギナーからマクロ、地形、カメラ派ダイバーもケア！ダイビングスタイルは、基本的に午前2本、午後1本。各ポイントが近いので、1ダイブ後には必ずダイビングセンターまで戻ってくる。軽くシャワーを浴びることやトイレにも行けるので、女性や年齢を重ねたゲストにも大

人気。ランチタイムのダイビングセンターでは、休憩中にハンモックで揺られたり、新しく増設された、海を一望できる天然太陽で温められた癒しのプールでリラックスしながらのビールも最高！海況が許せばポイントまでの移動中、トローリングして釣った新鮮なお魚をお刺身にしてサービスすることも（釣れなかったらない）。ロタホールのシーズン中（3月後半から10月後半）は、ゲストの希望に合わせて、時間帯の違ったロタホールに日にちを変えていく。

Micronesia
Rota Island
ミクロネシア・ロタ

Travel

Welcome to
Blue Palms Dive Service



& レストラン!

東京苑

エダマメ、コロッケ、揚げ出し豆腐などの居酒屋的なものから、定食、丼物、焼肉など幅広いメニューが揃う。その日にとれた新鮮な魚の刺身がオススメ（ない場合もあり）。飲み物もビールのほか、サワー系、焼酎なども用意されている。日本人、ローカル共に人気の日本食レストラン。



PIZZARIA

ソンソン村内にあるレストラン。ピザやパスタ、サラダなどが揃っており、テイクアウトも可能。中でもピザは美味しいと人気。ボリュームもあり2人以上での来店がオススメ。アルコール類はメキシカンビールを始め各種あり。



tsumi-shima

We World explorer

Twitter Facebook

ダイバーが泊まるロタの宿泊施設

ベイビューホテル <ローカルホテル>

ソンソン村内にあるローカルホテル。ブルーバームショップから徒歩で3分ととても便利。チャモロ人のオーナーさんのきめ細かいサービスとフレンドリーさが心地よいホテル。リピーターも多い。最近、各ベランダでウェットスーツが干せるように固定の竿を設置。朝食のみホテルレストランで食べることができる。Wifi 完備。



コーラルガーデンホテル <ローカルホテル>

ソンソン村内にあるローカルホテル。素朴な雰囲気ではあるが眺めもよく、コンビニ、レストランは徒歩圏内なので便利なホテル。



※各ローカルホテルの備品はタオル、石鹸のみ。電圧110V、チップの習慣無し
※温水シャワー、バスタブ無し

ヴァレンティノ <ローカルホテル>

ソンソン村内にあるローカルホテル。海沿いに面したホテルで、オーシャンビューの部屋は窓を開けるとロタブルーが一望できる。Wifi完備。1階のティアナーズカフェ（平日6時～14時／土日6時～12時）はお手頃で、朝食を取るのに人気。



ロタリゾートホテル <リゾートホテル>

ソンソン村から車で約15分ぐらいのリゾートホテル。ダイバーはもちろん、ゴルフ場もあるので、ゴルフやホテルでゆっくりされる方にはお勧め。



Micronesia Rota Island ミクロネシア・ロタ Travel

& コンビニエンスストア!

ロタ島に3つのコンビニエンスストアがある。ラッキーストアー、アンズストアー、ハーベストストアー。各朝6時～夜10時までオープン。ソンソン村内のホテルからは、全て徒歩圏内（5分～15分）日本の物は、ほとんど売っていないが、食パンや牛乳などがあるので、朝食用に入手は可能。ロタ島のハンドメイドのピュアココナッツオイルなどもあり、覗いてみるのも楽しいかも。



ロタ島の観光地!

テトビーチ

数ある世界中のビーチの中で、ダイビング雑誌の人気投票ナンバー1にも輝いたことのある美しいビーチ。真っ白い砂浜とロタブルーの4色の青のグラデーションが人々を魅了する。深場に行くと流れが強いこともあるので要注意。



Micronesia Rota Island ミクロネシア・ロタ Travel

千本椰子

ソンソン村内にある観光ポイント。数百本椰子が並び、南国を肌で感じる事ができる。目の前にはプライベート感覚で遊べるビーチ、トゥイックスベリービーチがある。週末はチャモロ人の家族がBBQをしていたりする。とってもフレンドリーなチャモロ人は、一緒に食べよう!との誘いもある。

バードサンクチュアリー

空港から車で約5分。ブルーパームスのあるソンソン村からは車で約20分と少し遠いが、見晴らしの良い展望台。崖の下にジャングルが広がり、アカアシカツオドリなど約40種類の野鳥が観察できる。遊歩道などもあるのでファミリーでも楽しめる。また運が良ければ虹がかかることも。



クロスポイント

目の前のウェディングマウンテンとソンソン村を一望できる、ソンソン村内にある高台の観光地。各ホテルから徒歩でも行けるので、一度登ってみても面白い。フィリピン海、太平洋の海が見え、特に夕日の時間はお勧めです。ここで一息深呼吸をするとエネルギーがもらえる気がする。

